

平成29年5月22日

自由民主党 絆

代表 古嶋 津義 様

八代市議会自由民主党 絆
管外行政視察復命書

視察期日 : H29.5.17 (水) ~ H29.5.19 (金)

視 察 先 : 函館市 (北海道)

調査項目: クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

盛岡市 (岩手県)

調査項目: 議会基本条例について

災害時における議会の対応について

会派要望 (東京都)

参 加 者 : 議 員 古嶋 津義



議 員 田方 芳信



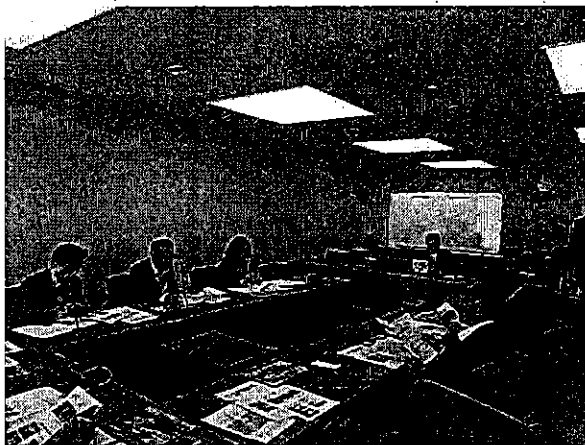
議 員 前川 祥子



八代市議会自由民主党 絆 管外行政視察復命書

平成29年5月17日（水）

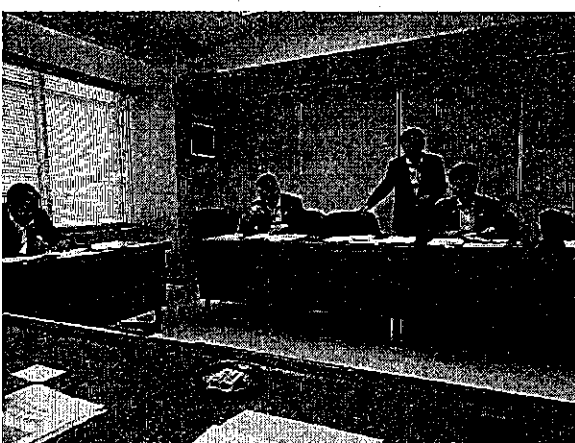
宮城県仙台市：クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について



平成29年5月18日（木）

岩手県盛岡市：議会基本条例について

災害時における議会の対応について



平成29年5月19日（金）

会派要望：



調査事項（函館市）

◎クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

1. 入港状況

以前は概ね年間 10 回程度の寄港回数で推移していたが、平成 23 年の東日本大震災の影響で大幅減となった。しかし、平成 24、25 年度には回復、特に平成 26 年度は、国内船、外国船合わせて 37 回、乗客乗員数 66,034 名と過去最多となった。平成 29 年度は寄港回数 30 回、乗客乗員数 47,000 名を予定している。

2. 入港に対する市のかかわり方（イベント・おもてなし等）

クルーズ客船が出港する際、盛大にお見送りをするため、地元幼稚園児やクルーズサポータークラブ「見送り隊」による「いか踊り」でのお見送りを行っている。

3. 入港に対する市民の反応・対応

平成 19 年 5 月より地元の私立女子高と連携し、高校生による通訳ボランティアを実施している。函館は上海から 3 日間を要するため中国人客は年間一隻程度であり、そのほとんどが英語圏からの客であるため、高校の英語科が課外授業の一環として受け入れ、生徒の自主的な「おもてなし」の姿勢により、徐々に質の高いサービスへと発展して、第 7 回観光庁長官表彰を受けている。

4. 入港に伴う市への経済効果

免税店は整備されているが、中国人がいないのでニーズはあまりない。具体的に経済効果を調査したことはないが、経済効果だけではなく、国際交流の場としての効果を大切にしたい。

5. 現状の課題と今後の方向性

クルーズサポータークラブ「見送り隊」は特定のメンバーしか集まらず、特に平日・夕方の参加率が低いことや、幼稚園児のお見送りは保護者の対応をしっかりとやらないと無用の混乱を起こすことがある。

今後は幅広く地域の関心を継続できるかが課題であり、市民にクルーズを身近に感じてもらえるように「船内見学会」や「市民向けクルーズセミナー」を開催している。さらにクルーズを憧れから実際に参加するものにするために、市民クルーズの実施創出への取り組みを始めている。

調査事項（盛岡市）

◎議会基本条例について

1. 条例制定の経緯

議会改革についての検討は、平成 23 年 11 月より開始し、議会基本条例については平成 25 年 9 月（議会運営委員の任期終了まで）を目途とした。

先進地である大分市、長崎市、松本市、富士市、横須賀市の議会改革の取り組み、議会基本条例について視察を行った。

平成 25 年 2 月、議会運営委員長が委員長案を提示し、以降案文について協議を実施した。

平成 25 年 7 月に条例に係るパブリックコメントを実施。

平成 25 年 9 月に発議案「盛岡市議会基本条例について」を可決した。

2. 条例制定後の効果と課題

議会改革の意識を議員が持つようになったのはその効果であろう。

執行部に「反問権」を与えているが、過去に行使されたことはないそうである。

また、請願を市民等による政策提案と位置づけ、積極的に請願・陳情者が願意を発表する機会を設けるよう努めることとしている。

さらにパブリックコメントにより、参考人及び公聴会を活用し、市民の専門的識見を議会の討議に反映することとしている。

3. 市民からの評価

市民に対して、評価に関する調査はやっていない。

市民というより、議員・議員内部のことなので、市民からの声は届いていない。

調査事項（盛岡市）

◎災害時における議会の対応について

1. 対応マニュアル等制定の経緯

（1）防災対策特別委員会（H23 年 10 月～H25 年 6 月）

東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、本市を「日本一安心・安全なまち」にするために、「災害に強いまちづくり」、「市民協働による防災対策」、「災害発生時における議員・議会の役割」について調査報告を行った。「災害発生時における議員・議会の役割」として、「盛岡市議会災害発生時における対応指針」及び「盛岡市議会災害対策会議設置要綱」の制定が必要であるとの提言をした。

（2）危機管理・災害対策特別委員会（H25 年 9 月～H27 年 6 月）

近年は、地震・局所的な豪雨・豪雪・竜巻・河川氾濫や土砂崩れ、噴火等これまで経験したことのないような自然災害が多発し、財産や国土、時には人命さえも脅かされている状況にある。今後も発生しうる自然災害や危機事案から市民生活を守るためにとるべき対策等について、調査報告を行った。

（3）盛岡市議会災害時における対応の指針等の制定

盛岡市議会災害時における対応の指針、盛岡市議会災害対策会議設置要綱については平成 26 年 9 月 30 日に制定、また会議中に緊急事態が発生した場合の対応については、平成 26 年 12 月 1 日議会運営委員会で確認した。

2. 制定後の効果と課題

緊急事態発生時避難訓練実施要項を確認し、平成 26 年 12 月 22 日の本会議閉会直後の議場での避難訓練につながった。

また避難の前に、自らの身を守る必要があるということで、各議席にヘルメットを備え付けるよう準備中である。

3. 市民からの評価

災害はいつ発生するかわからないので、市民の関心を保つことは難しい。市民に対し評価という点での調査はやっていない。

アメリカで始まった新しい防災訓練で、指定された日時に机の下に隠れるなど地震から身を守る安全行動を、1分程度一斉に行う「シェイクアウト訓練」を平成 28 年 9 月 1 日に行った際には、市民約 47,000 人が参加した。

議員名【古嶋津義】

◆視察日：平成29年5月17日（水）

◆視察先：北海道函館市

◆調査項目：クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

○入港状況

平成28年度の寄港回数26回、乗客乗員数50,000人。平成29年度

30回、47,000人（予定）。30ト未満の客船は西ふ頭、30ト以上は

港町ふ頭で対応。欧米からの乗客がほとんどである。港湾管理者は市。
○入港に対する市の取り組み

平成24年以前は、市職員及び一部通訳ボランティアで対応。平成25年

2千人規模の外国客船受入れて、岸壁等で大きな混乱が生じ観光

案内業務委託化を検討。留学生の受入れ等のボランティア活動から発

展した団体「北海道国際交流センター」に委託。同時に地元女子高校と連携し

通訳ボランティア、おもてなしとして学校特別に開放し、書道やお茶の体験。

又、地元幼稚園児等による「いが踊り」でお見送りを実施している。
○経済効果

デジタルマップを作成し、乗客乗員に配布。欧米系乗客が多いので

買い物は少い。ただ意外と乗船客よりクルーの消費単価が

高く、回を重ねるごとに街に詳しくなり、イタリアの自転車などで回る。

今後は経済効果を高めるため、施設との連携の可能性を検討。

◆視察日：平成29年5月18日（木）

◆視察先：岩手県盛岡市

◆調査項目：議会基本条例について

〔古嶋津義〕

○条例制定の経緯

検討の開始時期、平成23年11月から。平成25年9月（議会運営委

員の任期終了まで）を目途とし、推進のための組織を議会運営

委員会とした。条例制定に係る検討の足がかりとして、議会基本条

例制定市（ラモング上佐市）の視察を行った。平成25年2月議運

委員長が委員長案を提示し、以降案文について協議を实

施。平成25年9月6日、本会議で可決制定に至っている。

○効果と課題

効果としては、請願及び陳情の位置付けを明示、陳情は請

願に適合する内容で特に必要と認めた場合（委員会の合意）

は、請願と同様に提出者から趣旨を聴く機会を設ける

取り扱いにしようとするもの。ただし委員会が必要なしとした場合は除外のみ。

課題としては、議会報告会を年2回ほど開催しているが、参

加者が少く、クレーマー等の問題もあり、今後は、各種団体

等を対象に検討中。

○市民からの評価

市民に直接「関わるものでない」ので、特に評価なし。

◆視 察 日：平成29年5月18日（木）

◆視 察 先：岩手県盛岡市

◆調査項目：災害時における議会の対応について

〔古 嶋 津 義〕

○制定の経緯

盛岡市議会では、東日本大震災発生時、教育福祉常任委員会が開催中であった。委員会は直ちに散会したものの、議会としての意思疎通に欠け、混乱したという反省が残った。その後平成25年8月の豪雨、9月の台風により土砂災害、洪水被害が発生、さらに28年4月には林野火災に見舞われ、どこにおいても想定外の規模の災害と被害が発生し得るという教訓を踏まえ「盛岡市議会災害時における対応の指針」が2014年9月30日に策定された。併せて「盛岡市災害対策会議設置要綱」も制定。また会議中に緊急事態が発生した場合の対応についても定められた。○効果

災害時における対応の指針などにに基づき、議場での避難訓練を実施。訓練は議員のほか傍聴者も参加して行われ、避難経路などの確認。またそれぞれの場所で自分の命や安全確認行動を実践。○課題

まず身を守る行動（シェイクアウト）等の日常での事前学習。常備品としてのヘルメットの備えつけ（すぐ着用できる場所）の設置が検討課題。

議員名【田方 芳信】

◆視察日：平成29年5月17日（水）

◆視察先：北海道函館市

◆調査項目：クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

裾野の広い効果 クルーズの消費

飲食によって休憩時間の短いクルーズが、

船内の食事に飽きている、バスラーXにカッ

ス人気 回数を重ねることにより、街に詳しく

なる（自転車でお出かける）

ショッピングスポットの情報提供

意外な物が人気

乗船客よりも消費単価が高い施設との連携

の可能性模索）

おもてなし 新たな伝統 いか踊りでお見送り

デッキ上の乗客、乗員と一体感を持った独特の

見送り 軽快なリズムに乗った踊りは、簡単に覚えらる

◆視察日：平成29年5月18日（木）

◆視察先：岩手県盛岡市

◆調査項目：議会基本条例について

〔田方芳信〕

議員は市民の代表者であることを自覚し、
市民全体の福祉の向上を目指して活動すると
して、議会を構成する一員として次に
掲げる原則に基づき活動するものとする。
市民の意見の的確な把握に努め、市民の
代表としてふさわしい活動を行うこと。
調査及び研究活動等を通じて、自らの
資質の向上に努めること。
自らの議会活動について、市民への説明責任
を果たすよう努めること。

- ◆視 察 日：平成29年5月18日（木）
- ◆視 察 先：岩手県盛岡市
- ◆調査項目：災害時における議会の対応について

〔田 方 芳 信〕

特別委員会の設置

災害発生時における議員、議会の役割として
盛岡市議会災害発生時における対応
指針及び盛岡市議会災害対策会議
設置要綱の制定が必要であるとの
提言をした

①

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名 前川 祥子

- ◆視察日：平成29年5月17日（水）
- ◆視察先：北海道函館市
- ◆調査項目：クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

H23年からH29年の函館港クルーズ客船寄港回数は推移を見ると
H23年7回、H24年10回、H25年14回、H26年37回、H27年15回
H28年26回、H29年30回とほぼ右肩上がりである。H26年から特に
多いのは、函館港最大のクルーズ客船「グアイヤモンド・フランス」が
初寄港した事が大きな要因のようである。

客船は主に、アラスカからやってきており、客層は欧米人が多く、
日本一周やボツ・ツョニングのコースに函館港を組み込みやすいとの
利用士が多い。観光案内業務はH26年度から外国客船の寄港数の
急増にともない、留学生の受け入れ等のボランティア活動から発展
した団体「（一財）北海道国際交流センター」に委託化された。
その際、事前に勉強会や観光地の研修、反省会等を随時行なっている。
また、客からの買物の場所などの質問が多いため、市内のトリップル
マップを作成し、客からも好評を得ている。また、地元女子高校と連携し

②

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【 前 川 祥 子 】

◆視 察 日：平成29年5月17日（水）

◆視 察 先：北海道函館市

◆調査項目：クルーズ客船入港状況及び入港に伴う市の活性化について

生徒による通訳ボランティアも取り組み、生徒の自主的な「おもてなし」の姿勢により徐々に「質の高いサービスへと発展していった。そしてこの取り組みは先々日観光庁長官表彰を受け、クルーズ関係では初めて学校表彰対象となるのも初ということだ。クルーズ客船寄港の効果は、経済効果だけでなく、市民やとりわけ子供達の郷土への誇りや思いを繋げるよい機会と気づかされたそうだ。函館市は、客船の経済効果マーケティングは行っており、市は、地元の観光資源に一度来て見たら必ずリピーターになると自信を持っていて、気長に客船寄港への「おもてなし」の取り組みを行ない今後も、長い目で経済効果に繋がっていく考えの方である。これは、客船寄港予算も1000万で、担当職員も1人ということも分かるように、^{名の通った}観光資源豊富な函館市だからこそ、ゆとりと構えた印象を受けた。これから新たな観光資源を見出し、客が喜ぶ観光コースを作り出す、VA社などは、うらやましい限りである。また市民を観光戦略に巻き込む事も郷土への愛着を育ませることに繋がり、やはりこれも大切な事例であると再認識した。

①

◆視 察 日：平成29年5月18日（木）

[前 川 祥 子]

◆視 察 先：岩手県盛岡市

◆調査項目：議会基本条例について

盛岡市議会では、改選前の議会運営委員会で、議会基本条例の制定に意欲を示し、全会一致をえ、次の改選後には制定すると決定されていた。改選後の議会運営委員会の委員長は議会基本条例の骨子を作成し、委員会に提示し、これに委員会で一つ一つ丁寧に協議し、またそれぞれの会派への持ち帰りでの検討が行われ、H23年11月からH25年9月の議会運営委員会の任期終了まで議会基本条例制定の目途とした。持ち帰るとして、〇正副議長選挙における所信表明会、議案等に対する議員個人の賛否の公開、〇議会報告会の開催、〇災害に関する議員及び議会の役割を規定、〇反問権の認用等がある。

議会基本条例制定までの経緯の中で、議会がスムーズに動き、条例事態は作って良かったと議員は今でも満足しているとのことである。

しかし私が気になった部分には議会基本条例の中に、政治倫理条例が入っていないことである。ただ、これに関しては最初から話題にも上らなかったという。聞くとこのように、議会内での紛争もなく、通常の

②

◆視察日：平成29年5月18日（木）

◆視察先：岩手県盛岡市

◆調査項目：議会基本条例について

〔前川祥子〕

議会の議案に対する議事進行に特に問題も起こらないということ
なのであれば、議会基本条例制定に当ても、議員として高い意識を
持つ中で、当然であると全議員が承知し、淡々と議論がなされて
決定していくのも考えられる。

議会基本条例の内容の全てが、本当に議員にとって、市議会と行政
にとって必要ものであり、それを制定して方が良いかということに於いては、
まだ本市にとって充分議論の余地があると思う。盛岡市議会の
物事の進め方や、決定していくその過程というものは、非常に感心し、
多くに参考にし、このまま議会の状況を我々議会も何り上げて
いく努力をするべきだと思った。

- ①
- ◆視察日：平成29年5月18日（木）
 - ◆視察先：岩手県盛岡市
 - ◆調査項目：災害時における議会の対応について

【前川 祥子】

H23年3月11日に走った東日本大震災の経験と教訓を踏まえて、H23年10月から平成25年6月の間、防災対策特別委員会が設置され、「日本一安心、安全なまち」にあるために「災害に強いまちづくり」「市民協働による防災対策」「災害発生時における議員・議会の役割」について調査報告が行われた。その後「災害発生時における議員・議会の役割」として「盛岡市議会災害発生時における対応指針」及び「盛岡市議会災害対策会議設置要綱」の制定が必要であると提言された。

特に近年経験したことがないような自然災害が多発していること。H25年9月からH27年6月の間、危機管理・災害対策特別委員会を設置し、今後も発生しうる自然災害や危機事案から市民生活を守るためにとるべき対策等について調査報告を行っている。特にH25年9月に制定された議会基本条例の中に5条として「災害に関する議員及び議会の役割」が入っている。そして、議会における訓練として、H26年12月22日に議場での緊急事態発生時避難訓練が実施されている。特にアメリカで始まった新たな防災訓練 Shake Out を取り入れ、H28年9月1日に実施している。この訓練の特徴は、(1)統一して地震リハコにもとって(2)訓練日時を指定(3)Drop：姿勢を低く

②

◆視察日：平成29年5月18日（木）

◆視察先：岩手県盛岡市

◆調査項目：災害時における議会の対応について

〔前川祥子〕

Cover：体頭を守る、Hold on：揺れから収まるまでじっとする。という身の安全を守るための短時間の統一行動への一斉参加を住民に呼びかけていることにある。

これは、今や日本版 Shake Out があり、その特徴としては、

- 一、短時間で終わる訓練
- 一、効果を実感できる訓練
- 一、気付きがある訓練
- 一、助け合いの大切さかわかる訓練となり、その場で何をすべきかの目的を明確にし、適切な行動を選択できる能力を向上させる訓練である。

東日本大震災が起きた時、盛岡市は、議会中で常任委員会が行われていた。その後は委員会が行われなかったが、日中に起きた経験だった。災害時にいる議員一人一人の警戒の思いが深く深いものがあると考える。本市の場合も、熊本地震の経験を生かし、議会を含めた市民全体の日中に限った災害時対応もまとめておくべきであると感じた。

とりわけ、Shake Out 訓練は本市市民の災害対応訓練の向上に繋がる有効な手段であると思うので、本市でも取り入れることを提言したい。